

琉球大学学術リポジトリ

1960年1月の安保条約改定時の朝鮮半島有事の際の 戦闘作戦行動に関する「密約」に係る調査関連文書 No.4

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-15 キーワード (Ja): 朝鮮半島有事, ロジャース国務長官 キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43880

極秘

大臣 副官 幸

治元 幸

近藤 幸

末 幸

北 幸

沖縄に因り在米米大使と懇話の件

42.7.19 北米局長

7月18日 在米米大使招宴の際 懇話せし如き事
を下記のとおり。

本末— 15日の大臣大使会談の際 大使より
1970年内閣並みに ヴェトナム 米軍との内閣

に付 質問せられた。 1970年内閣は 本末
別個の内閣で、たゞこれか name に付さない

と云ふは 沖縄に集中するであろうと云ふ内
閣の内閣と 疑いあり。 又 ヴェトナムに内閣

大臣の 御趣意は、米方は 沖縄に因り 米
軍の ヴェトナム 作戦に 着しく 支障を来すような

措置を 進める 考はないか、 ヴェトナム 米軍の
如何に 拘りす。 今より 日米双方が 協定

GA-6

外務省

し得る 様及 形に 沖縄 返還を 實現する
方途を見出すよう 協議したいと云ふこと

である。

大使— 自分も 左様に 承つた。 問題は 日米

が 沖縄に 行く 米軍に どう云う 地位を 与へ
ようとするか である。

本末— 米方が いわゆる 完全な 自衛 使用、即ち
改裝 通りの 保証を するから 返還は 善

易に 進められる と考へたか。 それには 日米内
閣 御趣意の 様及 困難がある。 又 米方が

内閣並みの 地位を 主張すれば 米側は
返還を 拒否 せらる。 此の 旨に 双方の

協定し 得る 解決が あり得ないかを 探求
したいのである。

GA-6

外務省

大使— 米側は日方、如何を望むかを
示し苦い思いのたゞある。核兵器を
撤去せよと言はれるなら撤去するた
り。その他、最終兵器とも云うべ
きボリスのようなものではない種類の
核兵器も、沖絶には置かないと云う
ことの結果として抑止力はそれだけ
減殺されることとなる。核の問題は
別にしても、前回会談の際申し述べ
た如く、現にB-52の純粋な機材が沖
絶から飛立っており、又在沖絶の米軍
が通常兵器による韓国に何等かの
脅威し得ることを云うことか大まかに抑止
力たのたがある。

本館— 大使の言はれることは沖絶の基礎は
現状通り、即ちいかなる完全な自由使用
がなければならぬと云うことの様には伺え
るが、沖絶の現状は放棄し得ず、他
方「完全な自由使用」と云うことは国内軍
情から困難である。この内の問題を
開き、内々に協議しようとすること
ある。
大使— 如何なる「自由」と云うことは日方側の
問題である。施設輸送等の場合、沖絶
の抑止力を維持せよとするのは、日方、
例に於て相当な政治的負担を引受
けることとなる。従つてその政治的負担と沖絶の
現状と如何に接するかの日方の政治的判断の

問題である。
李元一総領事大佐と仲絶の懸念問題は日米
のいわゆる防衛姿勢の問題であること
は御認識に存じあり。その欠点から視て
復帰要求をどう相臨するか甚慮之し
いさつである。吾内には御承知の如き事情
があるから我方が米軍に認め得る地位
の限界について慎重を要するを得ない。我
方から之れらの条件と提出せよといはれ
る。抑々桂軍において軍事的役割を
荷っているのは米軍有つたから必要有
軍事的条件と云うものは米側から示され
なければ我方から判言する材料はない。
大佐「必要」と云うのはどう云うことか?」

李は米軍に何を期待するの?
李元一 一般的に云へば明らかである。即ち
我方は米軍が桂軍に対する教導的抑制
止力として存在することを要する。その大旨の
中で、仲絶の米軍が如何なる地位を占
められたいか、軍事技術的の二つで
はなないか?
大佐 軍事技術の二つなら、米側から何用?
米軍人より専門家を派遣し訓練をして
いこうであるが、根本は日米が何を米
軍に期待するかと云うは李側の決断の
問題である。
李元一 仲絶の現状は数量すべからず非が
の立場から、假に我方が基礎は本土

並みと云うことと「通達を要する」と云う事柄は
どうするか。

大塚 - 本土並みならず米側は仲尾を引揚
げたい。

本庄 - そればかり言いつまみである。仲尾の
価値はそんなものもあるまい。

大塚 - 自衛も通達を阻害しようとするものな
きは毛頭ないか。線画して申上げようか。

内閣は日本が仲尾の米軍を掃蕩力と
して存続させようとするなら、その立場が

ら如何なる政治的決断をしなければなら
ないか。地位を譲りようとするか。と云うことだ。

米側は先んじて態度を限り
たい。

本庄 - 秋方より見れば、いわゆる「自衛使用」と
「本土並み」の間に秋方として妥協し

得る基地の地位を見せたいのである。
そのうちには軍事技術の問題が入り来

るが、これは米側の見解を示すに
必要がある。秋方から側面から

「核は軍事協定、技術情報は自由」と
云う様なことを持ち出すことは余り根拠

がないと思ふ。

本庄 - この点を踏まえて、1970年は

無難なこと、先んじて秋方には、秋方は
これを仲尾通達問題に拘束する。秋方の

の要求として尋ねるものではない。と云うこと
を申上げたいからである。秋方の協

議の採算如何は 通算は びんたんの 数
率中の 4 所 記が 記 ないし。或は又

びんたんが 終つても 直ちに は 止まないと
云ふこと ないし ないの である。

土使 - その 長は 誤解 はないと 思ふ。